

令和7年度 5歳児 「野菜の栽培」

(令和6年度実践前修正箇所を斜体、実践後修正箇所を囲み文字にて示す。)

1. 期間 4月～9月及び9月～3月

2. 設定の理由

3歳児の時には、担任が育てている野菜を子どもたちは折に触れて見ている。そして、野菜が育っていく様子を見て驚いたり喜んだりしてきている。なかには担任が野菜の世話をしている様子を見たり、一緒に水やりをしたりした子どももいる。そして、収穫ができる時期になると、収穫した野菜をもらって帰り、身近な場所で育った野菜を食べることを楽しむ経験をしてきている。4歳児の時には、3歳児の時に育つ様子を見て収穫した野菜の中から育てたい野菜を選び、グループで栽培活動に取り組み、仲間意識を感じたり、教師や保護者に世話について教えてもらってやってみようとしたりしてきている。生長した野菜を見て、気付いたことをクラスや学年で共有したり、友達と一緒に力を合わせたりする経験も大切にしている。また、年間を通して色々な野菜を5歳児が自分たちで育てている姿を目にしてきている。

このような経験をしてきているため、5歳になると、野菜を栽培し収穫するという大きな見通しがもてるようになってきている。野菜の栽培の話題になると、自分の育てたい野菜を発言する子どもが多い。野菜によってはいつの時期にできる野菜かが分かっている子どももいるが、いつの時期に植えるのか、収穫がいつ頃できるのかについてはまだまだ知らない子どもも多い。しかし、季節によって育てられる野菜と育てられない野菜があることや、自分たちが4月から小学校に行く見通しをもって、幼稚園修了までに収穫できる野菜を選ばなければならないことなどは、5歳児であれば話を聞いたり、本やインターネットを使って調べて見せたりすると分かるようになってきている。

また、これまでの経験と年長としての自覚や誇りから、自分達自身で世話をすることへの期待をもっている。加えて、責任をもって自分の役割を果たそうとする気持ちも育ってきており、自分が育てている野菜に必要な世話は責任をもって取り組むようになる。そして、野菜を栽培する過程で、困った時には、知っている人に聞いたり本を見たりし、必要な情報を得て、自分達の野菜の世話に必要なだと考えてしてみようとする姿を見せる子どももいる。

野菜の栽培は、子どもにとっては「好きな野菜、知っている野菜を育ててみたい」「おいしい野菜を育てたい」等の明確な目的がある。そして、そのためにしなければならない世話も分かりやすい。しかし、自然が相手であるため、必ずしもうまくいくとは限らず、強い風やボールが当たって苗が折れたり、病害虫に悩まされたり、鳥に実を食べられたりすることもある。そして、その解決に向かって聞いたり調べたり考えたりしなければならないことも起こってくる。そのようなことがあってもそれを解決するために、仲間と一緒に試行錯誤するところに意味があり、解決できて野菜の収穫に結びついた時には、大きな満足感も得られると考える。このように、野菜の栽培を通して、5歳児の前半においては具体的な目標に向かって、友達と一緒に困ったことを乗り越えたり共に喜びを味わったりすることを経験してほしいと考える。

そこで、具体的な目標をもって主体的に取り組めるように、育てる野菜を自分で決めさせたい。そして、友達と一緒に困ったことを乗り越えたり共に喜びを味わったりできるように、育てたい野菜が同じ子どもと一緒に世話をしたり収穫をしたりする必然性が生まれる状況を作っていきたい。

3. ねらい

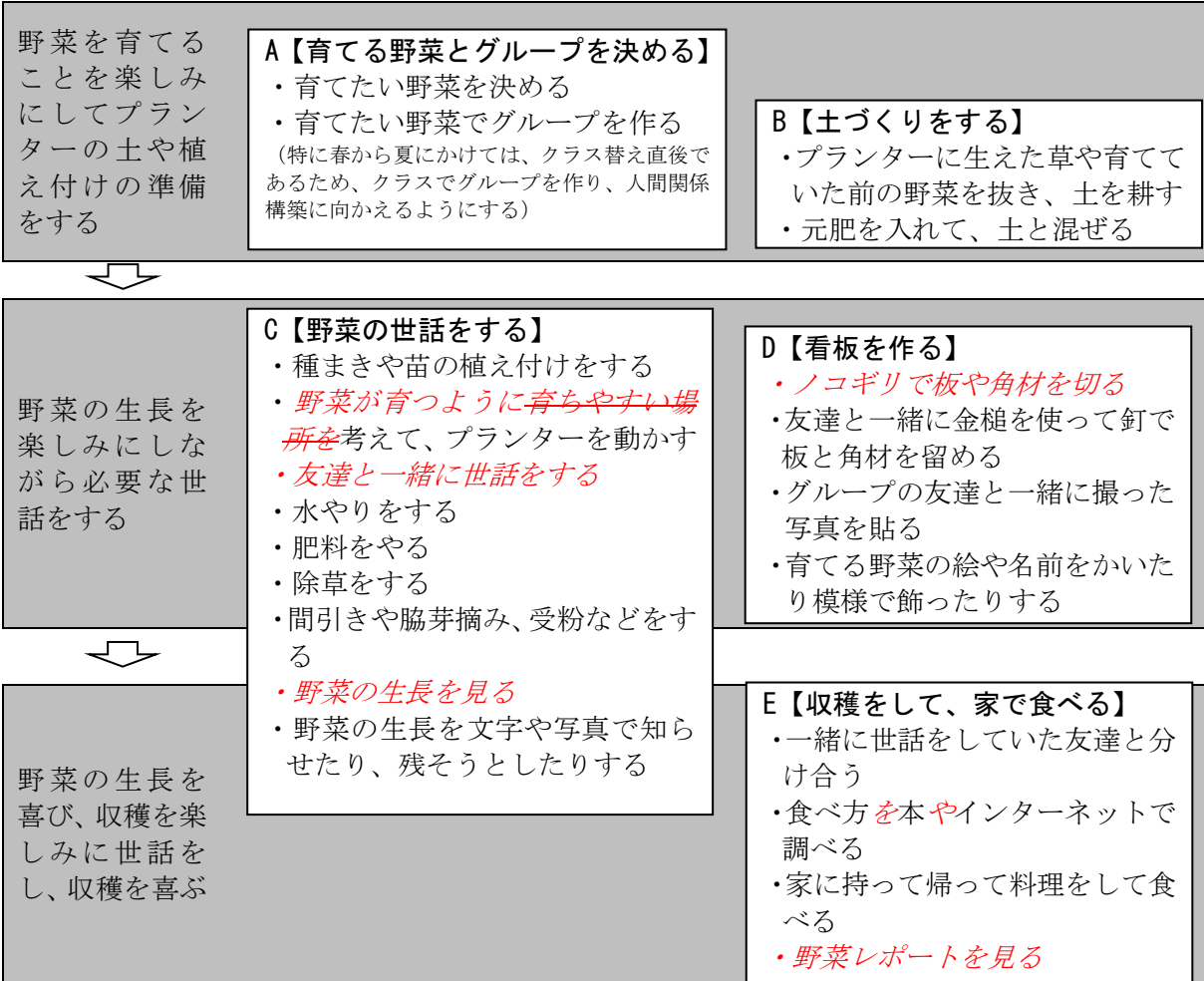
- ① 自分の育てたい野菜を自分で決め、期待と責任をもって毎日世話をしようとする。
自ら決める・選ぶ
- ② 毎日世話を続けることで野菜が生長していくことや収穫できたことを喜んだり、世話を続けてよかったと思ったりする。
自分に満足する
- ③ 野菜の生長に気付いたり看板を作ったり収穫したりする中で、大変だったことや毎日 世話を続けてきた自分を振り返ったり先生や友達に気付かせてもらったりして、自分の頑張り 気持ちや性格に気付いたり認めたりする。
自分のことを知る
- ④ 同じ野菜を育てる仲間がいることを喜び、一緒に世話をしたり野菜の変化を伝え合ったり収穫したりすることを楽しむ。
他者という喜びを感じる
- ⑤ 育てたい野菜が同じことから一緒にグループになった友達の個性や頑張りに気付いたり、認めたりする。
他者のことを知る
- ⑥ 一緒に世話をする中で、友達にしてほしいことや自分がしたいこと、自分の考えなどを分かるように伝えようしたり、分かってもらえるまで伝えようしたりして、伝えることのよさを感じる。
自分のことを伝える
- ⑦ おいしい野菜を作るため、病害虫や鳥、寒さなどの自然の脅威から野菜を守るために、一緒に育てる場所を考えたり声を掛け合ったりして、野菜に必要な世話やプランターを置く場所を決めたり、土づくり、看板づくりを一緒にしようとしたりする。
人と物事を進める
問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する
- ⑧ ノコギリや金槌を使う時に、どうすると危ないか考えたり、周りの友達や物に注意を向けて確かめ、危なくないようにしようしたり、釘がなくならないように、使った数と残った数を数えて確かめようしたりする。
身を守る
問題を認識する
- ⑨ 看板作りで、板が切れるように、ノコギリをひく力加減を調整したり、やりやすい姿勢や板を押さえやすい体重のかけ方などのコツを感じたりする。また、釘を打ち込もうと金槌で釘を狙って打ったり、打ち込むコツや打つ時に身体に響く感覚など の感覚を感じたりする。
身体を操作する
- ⑩ 大切に育てている野菜 や生き物が悪天候や厳しい寒さ、他の生き物によって、思いもよらず襲われる厳しさを感じる。
自然環境を見つめる
- ⑪ 野菜の生長を楽しみにし、関心をもって見ることで、その変化や野菜の特徴に気付いたり、野菜が育つように、必要な世話やプランターの置き場所を調べたり考えたりしてしながら、愛着をもって大切に世話を続けようとしたりする。
生き物・命を見つめる
- ⑫ 野菜に適した季節や環境、収穫の時期があることや、間引きや脇芽摘、受粉など様々な世話の仕方を 感じ知って世話をしようとする。
事物・現象を捉える
- ⑬ 集めて置いておいた落ち葉が、水をかけたり踏んだりすることで時間をかけて腐葉土になっていくことを知り、驚く。
事物・現象を捉える
- ⑭ 金槌を使うと釘を木に打てることや釘を打つと木がくっつくことを感じる。
事物・現象を捉える
- ⑮ 自分たちの作った看板が素敵になるように 絵や模様で飾ることを楽しむ。
造形に表す
- ⑯ 自分たちの知らせたいことが伝わるように文字や絵、写真で かいて知らせようしたり、かき残しておくよさを感じたりする。
語彙・語句を活用する
- ⑰ 収穫した野菜の数や大きさ、重さを数えたり測ったりして多少を感じたり、グループの人数と収穫した野菜の数を比べたり、どうすれば分けられるか考えようしたりする。
数・量をと捉える
比較する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する
- ⑱ 使った釘の数と残った釘の数を数えて 全てあるか確かめたり、看板を支えるのに必要な角材の必要な長さを測ったりする。
数・量を捉える
- ⑲ 板と角材 を重ねが 付くように、どこを釘で打つと付くか考えたり確かめたり、板に対して釘が真っ直ぐ入っているか確かめたりする。
空間を捉える
- ⑳ 食べることを楽しみにして野菜を育て、野菜のいろいろな料理があること 感じたり、食べ頃だと知ったり感じたりして収穫し自分で手を加えて食べられるようにしたり、野菜のをどう食べるか本やインターネットで見たり、

それを食べたりする喜びを感じたりする。

- 21 ~~野菜を大きく美味しく育てるためにどんな環境だと野菜が育ちやすいか調べたり、他のグループと見比べて考えたり遊ぶ人の時に邪魔にならないか確かめてプランターを置く場所を考えたり、たりしながら、育てる場所を考えたり状況によって変えてみようとしたりする。~~

場や状況を整える
問題を認識する
豊かに発想し、追求の手立てを構想する
実行し結果を基に判断を下す

4. 展開（以下を春から夏にかけてと秋から冬にかけて2回取り組む）



A【育てる野菜とグループを決める】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・育てたい野菜を決める	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の育てたい野菜を自分で決め、頑張っている世話をしようと思う① ○野菜に適した季節や環境、収穫の時期があることを知る② 	<ul style="list-style-type: none"> ◎栽培する野菜を自分で決められるように、決まるまで時間を充分に取り、一人一人の子どもに自分で言わせたり、理由を尋ねたり、友達を見て決めていないか確かめたりする。 ◎自分達で頑張っている育てていこうと思えるように、収穫を楽しみにする気持ちを盛り上げたり、去年の年長が苦労していた話や美味しく食べていた話をしたりする。 *育てたいと考えた野菜を植え付ける時期や収穫の時期、育つのに適した環境を調べて確かめられるように、野菜の栽培に関する本やインターネットで調べるためのパソコンを用意しておく。 ◎子どもが育てたいと思った野菜をそれぞれの季節

<ul style="list-style-type: none"> 育てたい野菜でグループを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ野菜を育てる仲間がいることを喜ぶ④ 	<p>や園での環境で育てられるかどうか分かるように、その場で調べ、植え付けに適した時期や育つ環境、収穫できる時期を知らせて育てられるかどうか一緒に判断する。</p> <p>◎同じ野菜を育てる仲間がいることを喜び、その友達と一緒に野菜に必要な世話をしようと思えるように、誰がどの野菜を育てたいと思っているかを知らせる。そして、同じ野菜を育てる友達とクラスや学年でグループを作って一緒に世話をすることを提案する。<i>同じ野菜を育てる仲間がいない時には、一緒に育てる仲間ができるように、相談してグループを作る。</i></p>
--	--	---

B【土づくりをする】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> プランターに生えた草や育てていた前の野菜を抜き、土を耕す 元肥を入れて、土と混ぜる 	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜の植え付けや生長に期待をもって準備をしようとする① ○集めて置いておいた落ち葉が、水をかけたり踏んだりすることで時間をかけて腐葉土になっていくことを知り、驚く⑬ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎野菜を植えることに期待をもって準備をしようと思えるように、自分が育てたい野菜やグループを決めることと平行して、野菜を植えるためには、準備が必要であることを伝え、一緒にするよう呼びかける。そして、教師も一緒にプランターに生えている草や育てていた前の野菜を抜いたり土を耕したりしながら、自分たちのしていることが野菜の生長にとってどのようによいかを伝える。 (可能な保護者に保育参加を呼びかけ、関わり方を伝え、一緒にやってもらう) *葉っぱが腐葉土になっていくことを身近に見て感じられるように、腐葉土を作る場所を年中児や年長児が目にする場所に確保しておく。 ◎葉っぱが腐葉土になっていくことを感じられるように、落ち葉を集めたり、集めた落ち葉に水をかけたり踏んだり混ぜたりする姿を見せたり、一緒にしたり、葉の様子の変化に気付かせたり知らせたりする。

C【野菜の世話をする】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> 種まきや苗の植え付けをする 野菜が育つように育ちやすい場所を考えて、プランターを動かす 友達と一緒に世話をする 水やりをする 肥料をやる 	<ul style="list-style-type: none"> ○期待と責任をもって毎日世話をしようとする① ○育ちやすい場所を考えて、プランターを動かそうとする⑭⑮ 	<ul style="list-style-type: none"> *野菜を育てることに期待がもてるように、<u>自分の</u>育てたい<u>と決めた</u>野菜の種や苗をそろえる。 ◎責任をもって毎日世話を続けようと思えるように、自分から水やりや草抜きをしている姿を認めたり、野菜の様子を尋ねたりする。 ◎野菜が<u>を育てる</u>にはどんな場所がよいか、野菜の様子を見たり図鑑を見たり環境の特徴に気付いたりしながら、自分たちで育てる場所を考えて、よりよい場所に動かしてみようと思えるように、どんな場所だと<u>育ちやすい</u>のか、一緒に図鑑やインターネット見たりプランターを動かしてこの場所にどんなよさがあるのか、遊ぶ時に困らない を尋ねたり考えたりする。

<ul style="list-style-type: none"> ・除草をする ・間引きや脇芽摘み、受粉などをする ・野菜の生長を見る ・野菜の生長を文字や写真で知らせたり、残そうとしたりする 	<p>○遊ぶ時に邪魔にならないか確かめてプランターの置く場所を考えたり、状況によって変えてみようとしたりする②</p> <p>○同じ野菜を育てる仲間がいることを喜び、一緒に世話をしたり野菜の変化を伝え合ったりすることを楽しむ④</p> <p>○育てたい野菜が同じことから一緒のグループになった友達の個性や頑張りに気付いたり、認めたりする⑤</p> <p>○一緒に世話をする中で、友達にしてほしいことや自分がしたいこと、自分の考えなどが分かるように伝えようとしたり、分かってもらえるまで伝えようとしたりし、伝えることよさを感ずる⑥</p> <p>○おいしい野菜を作るため、病虫害や鳥、寒さなどの自然の脅威から野菜を守るために一緒に考えたり声を掛け合ったりして野菜に必要な世話をす⑦</p> <p>○野菜の生長を楽しみにし、関心をもって見ることで、その変化や野菜の特徴に気付きながら、大切に世話を続けようとしたりする⑩</p> <p>○大切に育てている野菜や生き物が悪天候や厳しい寒さ、他の</p>	<p>◎遊びの邪魔にならないか確かめられるように、遊ぶ時に困らないか具体的な場面をあげながら尋ねたり、遊ぶ時に困った、蔓が伸びて場が狭いなど、困った状況に共感し、どうするとよいか考えられるようにしたりする。</p> <p>◎同じ野菜を育てる仲間がいることよさを感ずられるように、一人では難しい世話を仲間と一緒にするように誘う。</p> <p>◎野菜の変化を友達と一緒に喜んでみられるように、野菜の変化を見つけた子どもが仲間の友達に知らせる様子を見守ったり、まだ知らない友達に教えてあげるように促したりする。</p> <p>◎同じグループの友達の個性や頑張りに気付いたり、認めたりするように、同じ野菜を育てようになった友達の気付いたことや考えたことをグループの仲間と話をしている機会を捉えて、友達の気付きや考えを一緒に受け止めて話を聞いたり、世話を頑張っている友達の姿を知らせたり頑張りを教師が認める姿を見せたりする。</p> <p>◎自分の思いや考えを友達に伝わるまで伝え、伝えることよさを感ずられるように、伝えようとする姿を見守ったり励ましたり、相手がどう返事をしたのか尋ねて伝わっているか確かめたり、どんな伝え方をしたらいいか一緒に考えたり、伝わった嬉しさを言葉にしたりする。</p> <p>◎毎日の世話以外の特別に必要な世話を必要がある時には、グループの友達と一緒に解決しようできるように、グループの中で世話が必要なことに気付いていない友達を誘って一緒に世話をすように誘う。</p> <p>◎グループの友達と一緒に、野菜に必要な世話をしようと思えるように、本で調べたり、家庭や知人から聞いてきたりしたことを伝え合うことを提案する。</p> <p>◎野菜の生長による変化に関心をもって見られるように、野菜の変化に気付いた子どもに付き合っ一緒に見たり驚いたりする。そして、そのことを他の友達に知らせるように促し、子どもの気付きを他の子どもに広げ、自分の育てている野菜の変化にも注目させる。</p> <p>◎野菜を大切に世話を続けようと思えるように、野菜の生長としてきた世話を結びつけて話したり、大切に思っている気持ちを言葉にしたりする。</p> <p>◎大切に育てている野菜や生き物がこれ以上悪天候や厳しい寒さ、他の生き物によって襲われる厳しさを感じられるように、思いもよらず襲われる厳</p>
--	---	--

生き物によって、思いもよらず襲われる厳しさを感じる。⑩

~~○野菜の生長にはどんな環境がよいのか、自分たちでプランターを置く場所を考えたり、動かしたりしようとする⑪~~

○間引きや脇芽摘、受粉など様々な世話の仕方を知って世話をしようとする⑫

~~○野菜が生長したり、気付いたりしたことを、文字や写真で残したり知らせたりしようとする⑬~~

○野菜の生長や気付きなど自分たちの知らせたいことが伝わるように文字や絵、写真で書いて知らせようとしたり、かき残しておくよさを感じたりする⑭

○毎日世話を続けることで野菜が生長していくことや収穫できたことを喜んだり、世話を続けてよかったと思ったりする⑮

○食べることを楽しみにして野菜を育てることを楽しむ⑯

○野菜の世話をしたり収穫したりして、自分の頑張りや気持ち

しさに一緒に驚くいたり、そのためにどうしたらよいか一緒に考えたりする。

~~○野菜を育てるにはどんな場所がよいのか、野菜の様子を見たり図鑑を見たり環境の特徴に気付いたりしながら、自分たちで育てる場所を考えて、よりよい場所に動かしてみようと思えるように、どんな場所だと育てやすいのか、一緒に図鑑やインターネット見たりプランターを動かしてこの場所にどんなよさがあるのか尋ねたり考えたりする。~~

~~○毎日楽しみながら世話をしようと思えるように、野菜の変化を一緒に見たり、昨日と違う様子を見つけて話をしたりする。~~

*必要な野菜の世話について必要に応じて調べられるように、育てている野菜の育て方の本を用意しておく。

*いろいろな野菜の生長や世話について、クラスや学年で共有できるように、子どもの気付いたことや変化をその都度写真に撮りたり書いたりし、掲示することを継続して行う。

○野菜の様子に合わせて必要な世話があることを知ったりしりしようと思えるように、野菜や畑の変化に気付かせたり、本と一緒に調べたり、見通しをもたせたりする。

~~*野菜が生長したことや気付いたことを、文字や写真を使って友達に知らせたり、残したりすることに、よさを感じられるように、子ども達が撮った写真や書いたコメントを見える場所に掲示する。~~

○自分たちが育てている野菜のことを知ってもらえるように文字や絵、写真でをかいたりかき残したりしようと思えるように、自由にかき残せるものや場所を用意したり、知らせたい様子を写真に自分で撮る iPad を用意したり、残しておいたことよさを言葉にしたりする。

○毎日世話を続けてよかったと思えるように、毎日世話を続けていることと野菜の生長を結びつけてほめたり、これまで大変だったことや工夫したことを思い出させ、野菜の生長を一緒に喜んだりする。

○実が大きくなってくるにしたがって食べることを楽しみにして育てられるように、どんな料理をして食べたいか話を聞いたり教師の食べたい料理の話をしたり料理の方法をインターネットや本を見て一緒に調べたりする。

○世話を頑張った自分や自分の気持ち、ことや自分の性格に気付くきっかけになるように、これまで

	<p>や性格に気付く③</p> <p>○自分達が育てている野菜をどう食べるかを調べたり見たりして楽しみにする⑭</p>	<p>の苦労や頑張りを一緒に振り返り、頑張りを認めたり、大切に世話してきた気持ちを言葉にしたりする。→たことや教師が感じたその子の個性を伝える。</p> <p>○野菜を収穫して食べることが楽しみに思えるように、育てている野菜をどう食べるのか尋ねたり料理の方法をインターネットや本を見て調べたりする。</p>
--	---	---

※野菜の変化とは、芽が出る、茎が伸びる、葉が増える、茎が伸びる、花が咲く、実がなる、実が大きくなる、実が色付くなど
 ※野菜に必要な世話とは、支柱立て、ネット張り、わき芽摘み、間引き、追肥、摘心、受粉など

D【看板を作る】(※R4、5は夏野菜のみグループの看板を作った。)		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・ノコギリで板や角材を切る ・友達と一緒に金槌を使って釘で板をとめる ・グループの友達と一緒に撮った写真を貼る ・育てる野菜の絵や名前を書いたり模様で飾ったりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ野菜を育てる仲間と一緒に考えたり、手伝ったりして看板を作ろうとする⑦ ○ノコギリや金槌を使う時に、どうすると危ないか考えたり、周りの友達や物に注意を向けて確かめ、危なくないようにしようとしたり、釘がなくなならないように、使った数と残った数を数えて確かめようとしたりする⑧ ○看板作りで、板が切れるように、ノコギリを引く力加減を調整したり、やりやすい姿勢や板を押さえやすい体重のかけ方などのコツを感じたりする。また、釘を打ち込もうと金槌で釘を狙って打ったり、打ち込むコツや打つ時に身体に響く感覚などの感覚を感じたりする⑨ ○金槌を使うと釘を木に打てることや釘を打つと木がくっつくこと感じる⑭ ○使った釘の数と残った釘の数を数えて全 	<ul style="list-style-type: none"> ◎友達と看板の飾り方や作り方を一緒に考えたり、手伝ったりしながら作ろうと思えるように、グループの友達と1つ(人数によっては2つ)の看板を作る機会をつくる。 ◎どうすると危ないか、危なくないようにどうしたらいいか考えて、気をつけてノコギリや金槌を使おうとするように、どんな道具か知らせたり、どうすると怪我をしやすいか具体的に知らせたり意識して気を付けていることを言葉にしたりする。 ◎釘の数を確かめてなくなならないようにしようと思えるように、なくなることでの危険性について一緒に考えたり話したりする。 ◎ノコギリを引いたり金槌を打ったりするコツを感じられるように、やりやすいかどうか尋ねたり、コツを得てしている友達の姿を見せたり、どうするとやりやすいか尋ねて感じていることを言葉にさせたりする。 ◎木と木を釘で留めるコツをつかめるように、金槌と釘の扱いが難しい子どもには手を添える。 ◎打つ時に身体に響く感覚を味わえるように、どんな感覚か尋ねたり、子どもが感じていると教師が見取った感覚を言葉にしたりする。 ◎金槌や釘の特性やした後の違いや変化を感じられるように、扱い方を見せたり十分に試す時間や機会を保障したり、様子の変化を言葉にしたり不思議がったりする。 ◎釘の数を数えて確かめたり、必要な角材の長さを測って切ろうとしたりするように、グループに1

	<p>てあるか 確かめたり、角材の必要な長さを測ったりする⑱</p> <p>○板と角材を重ねが付くように、どこを釘で打つと付くか考えたり確かめたり、板に対して釘が真っ直ぐ入っているか確かめたりする⑲</p> <p>○自分たちの知らせたいことが伝わるように文字や絵でかいて知らせようとする⑳</p> <p>○自分たちの作った看板が素敵になるように絵や模様で飾ることを楽しむ㉑</p> <p>○友達と一緒に看板を作りながら、自分の頑張りや性格に気付く㉒</p>	<p>0本ずつタッパに入れて釘を渡し、使った数と曲がった数、残った数を確かめるよう促したり、適切な長さを知らせたり定規で測って見せたりする。</p> <p>○板と角材の位置、釘の刺さり方を感じたり確かめたりしながら作れるように、どこを釘で打つとくつつくか、安定しそうか尋ねたり、釘の角度を一緒に見て確かめたりする。</p> <p>○自分たちの知らせたいことを伝えるために文字や絵などを使おうと思えるように、グループの友達と撮った写真を渡し、知らせたいことを友達と相談する時間をもったりどんなことをかいたら伝わるか尋ねたりする。</p> <p>*知らせたいことをグループの友達と一緒に表現できるように、グループの友達と撮った写真や板をグループに1つずつ用意しておく。人数の多いグループには、1人ずつが表現できるように、複数の材料を用意する。</p> <p>○看板を絵や模様で飾って素敵にしようと思えるように、こだわっているところを具体的に言葉にしたり、絵を描くことで素敵になってきたことを知らせたりする。</p> <p>○自分の頑張ったことや性格に気付くきっかけになるように、看板を作りながら教師や友達に頑張ったことを尋ねて認め合ったり、気付いたことを話し合ったりする。</p>
--	--	--

E【収穫をして、家で食べる】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<p>・一緒に世話をしていた友達と分け合う</p> <p>・家に持って帰って食べる</p>	<p>○毎日世話を続けることで収穫できたことを喜んだり、世話を続けてよかったと思ったりする②</p> <p>○一緒に野菜を収穫することを楽しむ④</p> <p>○収穫した野菜の数や大きさ、重さを数えたり測ったりして多少を感じたり、グループの人数と収穫した野菜の数を比べたり、どうすれば分けられるか考えようとしたりする⑱</p>	<p>◎毎日世話を続けてよかったと思えるように、これまで大変だったことや工夫したことを一緒に振り返りながら、収穫を一緒に喜ぶ。</p> <p>◎野菜と一緒に育てた仲間と楽しんで収穫できるように、同じ野菜を育てている仲間が集まって収穫するよう呼びかけ、野菜の収穫の時期を育てている子どもと一緒に判断する。</p> <p>*生長を喜んで比べたり分けたりする必要に応じて、大きさや重さ、数を測れるように、定規や秤を用意しておく。</p> <p>◎野菜の大きさ、高さ、重さ、数に関心をもったり、グループの人数でどう分けるか考えたりするように、量の多少を一緒に感じたり、大きさや高さ、重さや数の違いを尋ねたり、何人で分けるのか尋ねたりする。</p>

<p>・野菜レポートを見る</p>	<p>○収穫した野菜を見たり持ち帰ったりして、自分の頑張りや性格に気付く③</p> <p>○育てている野菜が食べ頃だと知ったり感じたりして収穫し、自分で手を加えて食べられるようにしたり、それを食べたりする喜びを感じたりする②⑩</p> <p>○野菜レポートを見て友達がどのように野菜を食べたのか知り、いろいろな料理があることに興味をもつ②⑩</p>	<p>◎自分の頑張ったことや性格に気付くきっかけになるように、収穫した野菜は頑張って世話をしていたことを教師や友達と認め合ったり、気付いたことを話し合ったりする。</p> <p>◎育てている野菜の食べ頃を感じられるように、野菜の様子を見たり一緒に調べたりする。</p> <p>◎収穫した野菜を自分で手を加えて食べられるようにしたり、それを食べたりする喜びを感じたりするように、家庭に協力を求めて子どもと一緒に調理してもらったり、調理したり食べたりする中で気付いたり感じたりしていたことをレポートで紹介してもらったりする。</p> <p>*収穫した野菜の色々な料理に興味をもてるように、家庭に協力を求めてお野菜レポートを提出してもらい、掲示したり、手に取りやすいところに置いておいたりする。</p>
-------------------	---	---